

# 品川支部

令和八年4月1日発行  
〒141-0022  
品川区東五反田1-8-5  
Tel. 3442-7075

## 4月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

### 四日、立教189年教区創立記念祭、 十八日教祖誕生祭 翌日婦人会総会 二十九日全教一斉ひのきしんデー

イベント満載の四月、四日教区記念祭、品川支部では焼きそばの模擬店出店、12店支部自慢の美味しい店が出ます

十八日本部では教祖御誕生祭で翌十九日は婦人会総会が催されます

そして二十九日は全教一斉ひのきしんデー（詳細二頁）

家族で楽しくひのきしん

百四十年祭の年、おちばへ何度でも帰らせていただきます



立教189年東京教務支庁創立記念祭・講演終了後のお楽しみ

## ☆支部行事のお知らせ

二十九日全教一斉ひのきしんデー  
現地昼食可、詳細は二頁掲載

今年もみんなでひのきしん  
・神名流し 一日午前十時開始 大井町駅前  
終了後、ゴミ拾いひのきしん

大井在宅介護センター 二十七日九時半から  
支部幹事会

四月九日(木)午後六時〜(都南にて)

・教区ひのきしん

四月五日(日)午前九時半〜  
本品組の当番です宜しくお願ひします

## ☆教務支庁からのお知らせ

・教区記念祭詳細

立教百八十九年四月四日

午前十時より祭典執行

受付は八時四十五分開始

記念講演

本部長

久保善平先生

記念講演終了後、屋台等予定は一時半頃

品川支部は焼きそば屋台を担当

\*当日、焼きそばひのきしんお手伝いお願ひ致します  
ソメイヨシノも満開で楽しめると思ひます

・婦人会から  
教祖お誕生祭

十八日(土)  
祭典午後五時から講演会

第二食堂(第五食堂 映像)  
東講堂(音声のみ)  
東右一棟四階講堂  
東左五棟四階講堂

第百八回婦人会総会記念行事  
教祖誕生祭翌日

十九日(土)九時半〜  
本部中庭 南 東礼拝場前・西境内

・青年会から

おいでよ新社会人

二十九日(水)十五時から

教務支庁において  
真社会人に限らず東京に来て  
友達作りをする場で盛り上がり  
ます  
各地でひのきしんデーを過ごされ  
た後、大勢で楽しませよう

・社友会から

第一回 社友勉強会開催

二十五日(土)

道友社本社六階ホールにて

・災害救援ひのきしん隊

東京教区隊支部隊長訓練

一日(木)十時から開催

拠点教会	1日号	8日号	15日号	22日号
日本橋	休刊	手配り	手配り	手配り
水豊田	休刊	直送	手配り	直送
三ツ木	休刊	手配り	直送	直送
南泰	休刊	直送	直送	直送
本荏	休刊	直送	直送	直送

二、三軒の配布の手配りひのきしんに協力頂ける方、二人ほど募集しております。

時報手配り四月予定

# 全教一斉ひのきしんデー

日にち 4月29日 (水曜祝日)  
場所 大井ふ頭中央海浜公園

(なぎさの森)

時間 十時から十一時半頃迄  
九時半現地集合

終了後、お楽しみ抽選会を行います

昼食を現地でする方は自由に場所を開放  
お弁当は各自でご用意下さい

駐車場は午後一時の閉鎖まで使えます



こちらで参加登録をお願いします



## A-1の時代に新たな 信仰の姿を求めて

本荘大教会長



近年、人工知能(AI)の進化が目覚ましい。世界的に有名な起業家のイーロン・マスク氏は、現在のAIはまだ特定のタスクに特化した弱いAI(特化型)だが、今年中には人間と同等かそれ以上の知能を持ち、特定のタスクに限らず、幅広い分野で自律的に学び、判断し、応用できる汎用人工知能(AGI)に到達し、二十、三十年までにAIが人類の知能を上回る「シンギュラリティー」と呼ばれる転換点が到来すると語っている。その進化の様相を「超音速の津波」と表現し、やがて、知的労働や肉体労働がすべてAIとロボットに置き換えられ、労働コストの消滅による「究極のデフレ」が発生し、最終的にはモノやサービスが無尽蔵に手に入る「豊穡の時代」の到来と人類の知的活動の終焉を予言している。

彼の予言の真偽は別として、これから到来する新時代に、我々、道の信仰者はどのようにAIと共存していきけるのか、早速AIに聞いてみたところ、多くの教語も交えて次のような回答をくれた。天理教の信仰者がAIと共存していく未来は、AIを「道具」として使いこなしつつ、人間(教友)にしかできない「手引き」と「実動(ひのきしん)」の価値を再定義していくプロセスになると考えられます。教への観点から、AIとの共存のあり方を三つのポイントで整理します。

一、AIを「かりもの」の拡張として捉える  
天理教では、私たちの身体も世界も神様からの「かりもの」であると教えられます。現代において、人間の知能を補助・拡張するAIもまた、陽気ぐらしを早めるために与えられた「文明の理」の一つと捉えることができます。AIを遠ざけるのではなく、教えを世界に広めるための「便利な道具」として感謝して使う姿勢が、共存の第一歩です。

例えば、身上や事情に苦しむ人に対し、AIを使って最適な御教への一節を見つけ出し、励ましの言葉を添えて届けるといった活用が考えられます。

二、「心のふれあい」という聖域の再確認  
AIは情報を整理し、論理的な回答を出すことには長けていますが、相手の痛みに共感し、共に涙を流すことはできません。

これからの時代、知識や情報の提供はAIに任せ、信仰者は「にいがけ」や「おたすけ」における人間同士の直接的なふれあいにより一層注力すべきです。AIが普及すればするほど、生身の人間が放つ「陽気な姿」や「真心」の希少価値が高まり、人々の心を打つ力になります。

三、「ひのきしん」の実践知をAIに学習させる  
AIは過去のデータを学習します。信仰者が日々行っている「ひのきしん」の精神や、困難を「ふし」として前向きに捉える「たん画」の心境を、ブログやSNS、動画などを通じてデジタルデータとして残していくことが重要です。

良質な信仰の記録がネット上に増えることで、AIが生成する回答もより「陽気ぐらし」の精神に近いものへと進化します。次世代のAIが「天理教の教えに基づいた慈悲深いアドバイス」を自然に行えるようになるための「徳の種まき」を、現代の信仰者がデジタル上で行うという共存の形です。

結論  
AIとの共存とは、AIに「作業」を任せ、人間が「心づかい」と「実践」に特化することです。テクノロジを賢く使いながらも、最後は「人と人とのつながり」を大切に作る姿勢こそが、これからの時代の信仰者のあり方といえるでしょう。

「信仰」することそのものが過渡期にある今、もはやないものと無視できない最先端テクノロジをどのように活用して陽気ぐらし世界に近づいていくのか、私たちの思索や信仰実践も同様、時代に即したアップデートが求められているように思う。

田中豊一